

since 1920

# 運輸新聞

E-mail inquiry@unyu.co.jp URL http://www.unyu.co.jp

発行所・運輸新聞株式会社  
東京都荒川区西日暮里3-6-10  
佐々木ビル3F 〒116-0013  
TEL03-5685-0035  
関西支社 大阪市中央区瓦町1-3-2  
〒541-0048 TEL06-6209-3261  
発行人・野口香織  
火・金発行(祝日を除く)  
3,600円/月(送料・税込)

2020年

9月4日(金)

第17330号

“物流の未来と人の明日に”

T-11型 レンタルパレット JPR APP アジアパレットプール

JPR パレットプールシステムは... JPR 日本パレットレンタル株式会社

## 自動走行ロボットによる実証開始 佐川急便とソフトバンク 屋内外で実用性検証

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)は、ラストワンマイル物流の実現に向けた自動走行ロボットの技術開発に着手、今月から約1年かけて10の実証事業を行う。その1つに、佐川急便とソフトバンクによる「オフィスビル内外配送サービス」が選ばれ、ソフトバンクの新社となる竹芝エリアで実証実験を行う。

ラストワンマイル物流ロボットと信号機の連携システムの開発、交差点を横断するなど、安全に走行しながら荷物を配送する実証を行う(公道実証も予定)。走行時の荷物の温度変化や段差などによる衝撃も検証する。屋内では、東京ポートシティ竹芝オフィスタワーに自動配送ロボットと館内エレベーターの連携システムを導入し、エレベーターに昇降して異なるフロアへ荷物を配送する実証を行う。オフィスビルや商業施設でのロボット自動配送の有効性も検証する。

佐川急便とソフトバンクは、東急不動産、アスクル、タリーズコーヒージャパン、Magica Moveと協力し、屋外と屋内の2つの配送シナリオに沿って、技術面やサービス実用性について検証・評価を行う。屋外では、自動走行ロ

搭載したアプリケーションを開発して検証・評価を行う。NEDOは、事業期間を今月から来年9月まで、予算額3億円と設定する。

## 子育て事業に参入 プロケアがグループ入り

センコーグループホールディングスは、1日、保育所や学童クラブなどを運営するプロケア(本社東京)の全株式を取得し、グループに迎えたことを発表した。

プロケアは、1999年12月設立、資本金4800万円、従業員数883人で、子育て世代の女性の社会進出を支援してきた企業。

2002年5月に東京・江戸川区で認証保育所を開設して以降、学童クラブの運営、一時預かり保育事業の受託と事業を拡大していき、現在は全国54カ所で保育所や学童クラブなどを運営している。

センコーグループホールディングスは、1日、保育所や学童クラブなどを運営するプロケア(本社東京)の全株式を取得し、グループに迎えたことを発表した。



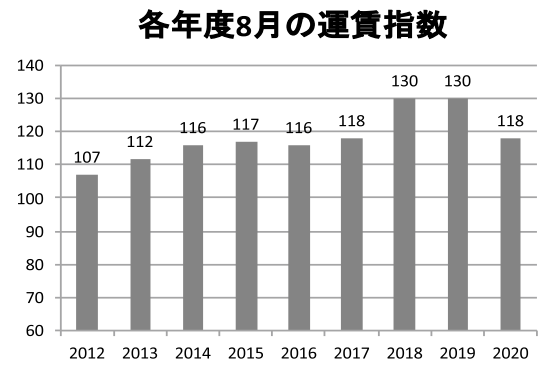
プロケアの保育所。同社は「企業理念にある」を拡大できると見込んでいる。

保育所の新規開設、学童クラブなどの新規受託といった、拠点増設をはじめとする資金調達が容易になる。また、保育のクオリティの向上や新サービスの提供などによる差別化などのメリットが期待できるとともに、センコーのPDセンターなどに設置している企業内保育所の受託、リソースを生かした業務の効率化や人材確保なども進めることができることから、グループ入りを決めた。

## 運賃指数は118 4月以降2ヶ月減が続く

「人々の生活を支援する」の実現に繋げるとともに、地域や社会への貢献を進めていく」としている。前年同月の推移は昨年9月以降減少が続く、今年4月以降は2ヶ月の大幅減が続く。前月は7月にプラスに転じてから2ヶ月増5.7%増と回復傾向にある。求車登録件数は7万2157件で前年同月比47.3%減(7月49.7%減)、前月比25.4%増(同54.4%増)。成約件数は1万8759件で前年同月比9.7%減、前月比7.5%減。成約率は26.7%と前年同月比11.1%増、前月比9.5%減。

全日本トラック協会と日本貨物運送協同組合連合会(日貨協連)がまとめた8月分の求車求車情報ネットワーク(WebKIT)成約運賃指数は、前月比5.7%増、前年同月比12.7%減の118だ



地企業のみならず外資企業も主要顧客に、倉庫・輸送・フォワードインクなど幅広く事業を展開している。同社は、第6次中期経営計画(2019年11月期~21年11月期)の基本方針の一つ「新領域の創出による成長」に向け、海外での事業領域拡大を成長ドライバーの一つに位置づけている。中でも、東南アジア地域で市場規模が大きいインドネシアを有望な市場として進出機会を検討してきた。近年は食の多様化が進み、冷凍食品やチルド食品の需要が伸びており、厳格な温度管理が求められる低温物流の拡大が見込まれている。同社では「今回、4社を当社グループに迎えることにより、インドネシアに物流拠点と輸送網を確保し、成長が期待されるインドネシア市場で高品位な低温物流サービスの提供を目指す」としている。

## JILS ピッキングロボ開発 Kyoto Robotics boobALTAAC ロジスティクス大賞

日本ロジスティクスシステム協会(JILS)は、2020年度ロジスティクス大賞の受賞事例を決定。大賞にKyoto RoboticsとboobALTAACの「日用品卸センターの省力化・自動化における知能ピッキングロボットの活用」が選ばれた。

日用品を取り扱う物流センターでは、商品の約半分、1万SKUが毎年リニューアルされ、商品マスタデータの登録・管理が難しく、ロボット導入が困難となっていた。そこで、3年近くかけてロボットの改良を繰り返して、SKU比で99.5%の認識率となる商品マスタデータを作成し、1時間当たり処理能力700ケース以上の無人自動ケースピッキングロボットを開発。これにより、庫内作業の自動化、商品マ

スタデータを利用したトラック配送予約のための体積計算など、積み付け効率も実現した。SDGS環境賞には豊田自動織機による「貨物自動車」の累積稼働率データ取得および分析による物流CO2削減への取り組み、業務革新賞には加藤産業による「全国物流拠点の物量予測・出荷生産性改善」レベルのボトムアップ・標準化の取り組み」が選ばれた。

## キューソー流通 インドネシアに進出 低温物流企業4社買収

キューソー流通システムは8月28日、インドネシアの低温物流企業であるKIAT ANANDA at Ananda Cold Storage (本社ブカシ、売上高13.2億円)、PT Ananda Solus (本社はブカシ、売上高6.5億円)の4社を買収する第三者割当増

資を引き受け、子会社化する契約を締結した。取得価格は約70億円、払込期日は9月30日を予定。同グループは、インドネシアに5カ所の冷凍・冷蔵車両590台を有しており、特に低温物流に強みをもつ。食品メーカーや外食産業など現

った。前年同月の推移は昨年9月以降減少が続く、今年4月以降は2ヶ月の大幅減が続く。前月は7月にプラスに転じてから2ヶ月増5.7%増と回復傾向にある。求車登録件数は7万2157件で前年同月比47.3%減(7月49.7%減)、前月比25.4%増(同54.4%増)。成約件数は1万8759件で前年同月比9.7%減、前月比7.5%減。成約率は26.7%と前年同月比11.1%増、前月比9.5%減。

「痛みを伴う改革」とよく口に、改革に伴うツケを国民に押し付けることを綺麗事のように言うのは閉口したが、考えてみれば改革には痛み、つまり副作用を伴うのは当然であり、それをいかに小さく抑えるかが為政者の手腕であるといえる。政治に限らず、ビジネスの世界でも今やネットワークの多文化などサプライチェーンの改革(変革)が求められている。変革にはコストがかかるため、国は補助金を出すことにしているが、まだ申請はそれほど多くないようだ。改革の実現よりも、改革による副作用がどう出るかが読めないための躊躇と想像される。一方、副作用はかりに目を向けては何か変わらないことも確かだ。

